

## 編集後記

○初夏を思わせる太陽が新緑に映え、コイのぼりが波うって泳ぐさまは、まさに5月ならではの新鮮で発刺とした季節感にあふれています。あちこちで牧草の刈取りも始まり、本県でもようやくこの頃刈取った青草を満載した運搬車やオート三輪をあちこちでよくみかけるようになりました。たしかに畜産が普及し、経営形態も変わりつつあることが伺えます。

○先頃国や県で発表されました農業観測をみても、今年度の畜産物価格は昨年と比べ明るい見とおしが立てられているようです。和牛価格は有史以来といわれた昨年より少し悪いにしても、生乳、豚価、鶏卵、などは、次第によい方向に向うものと見込まれています。

○さて今月号は解説として「旭東地区の乳牛飼育の実態について」長浜家畜保健衛生所から、多忙をさいて調査された結果の取まとめを寄稿いただきました。こういった飼育の実態がより広い地域で明らかにされることが望まれます。未調査地域でも参考になるものと思います。「鶏の成長過程における鶏体各部の大きさは」は、養鶏試験場からこの4月に万国家禽会議で発表されたものをわかりやすく解説していただきました。貴重な基礎調査であると思います。

その他「酪農大学校からの第一報」も異色ある痛快な筆致で御寄稿いただき、今後第二報以下を大いに期待しております。経済欄には少し長過ぎたかもわかりませんが、37年度上期の農業観測を掲載しました。